

鶴尾小学校 人権・同和教育計画

1 人権・同和教育目標

一人ひとりの自尊感情を高めるとともに、豊かな人権感覚を育む人権・同和教育の実践

〔目標設定の背景〕

- ・ 現在においても、同和問題をはじめとする、様々な人権課題が存在し、偏見や差別に苦しんでいる人々がいる。
- ・ 国際化、情報化、少子高齢化社会などの進展に伴って、新たな人権問題も生じている。
- ・ 人権課題を解決するには、それぞれの発達段階において、人権に関する知識を学ぶとともに、人権感覚を育て「自分の大切さとともに、他の人の大切さを認めることができるようになり、それを具体的場面で実践できる力」を十分に育てる必要がある。
- ・ そのためには、まず児童一人ひとりが自尊感情を高め、自分の生き方や集団の課題とつないで、人権課題を自らの問題としてとらえるとともに、他者とつながりながら、自らの夢や希望を育み、それぞれが自己実現できる力を育てていくことが大切である。

2 めざす教師像

差別の現実によく学び、被差別の立場に立ちきる人権・同和教育の実践をめざして

①	常にしんどい思いをしている子を中心に捉え、その思いに寄り添っていく教師
②	子どもの表面に現れる行動だけを見るのではなく、長年にわたる差別による生活破壊と苦悩の中に子どもが育っているという現実の課題をふまえて児童を理解していく教師
③	自分自身の差別心と向き合い、自分の弱さに立ち向かう教師
④	日常的な家庭訪問や文化センターとの連携等を通して、積極的に地域に進出していく教師
⑤	子どもとともに学ぶという実践研究で研修を進めていく教師

3 各学年の目標

学年	目 標
1	友だちとのふれあいを通して、 <u>だれとでもつながろうとする</u> 。
2	友だちの気持ちを考えながらだれとでもつながろうとし、 <u>助け合って行動</u> できる。
3	多くの人たちとつながりながら <u>地域社会に参画</u> し、 <u>郷土愛と自分への自信</u> を深める。
4	障がいのある人や他校の友だちとの交流を通して、相手の立場になって何ができるか考え、 <u>自分ができることを進んで行う</u> ことができる。
5	身近な人権課題に気づき、互いに協力して課題を解決しようと行動することで、人権を守ることの大切さが分かり、 <u>相手の立場に立って行動</u> しようとするができる。
6	基本的人権について学び、 <u>同和問題をはじめとする人権課題</u> を解決するための方法について考え、 <u>自分の生き方に生かす</u> ことができる。

4 人権・同和教育の核となる学習活動

ふるさと鶴尾のよさを見つける体験を通して、「鶴尾はこんなにすてき」という思いを高める。また、「あんな人になりたい」という先人への思いを支えに、未来を切り拓いていく力をつけるために、次の『鶴小タイム』を実践する。

学年	関わりの対象や学習材	関わりの目標
1	遊びや保育所・香川中部 養護学校の友だち	だれとでも なかよくしようとする
2	文化センター	同和問題とのプラスの出会いの第一歩とする
3	鶴尾ファーマルラボ 南部伊平・観賢僧正 文化センター	地域の方々とつながりながら自分にできることはないかを考え、社会に参画しようとする。 文化センターの役割を知る
4	障がいのある人や他校の 友だち	相手との違いを前向きに受け止め認め合って、人と関わることの大切さを学ぶ。そして、人権が守られる社会の実現をめざして助け合おうとする。
5	ハンセン病回復者の方や 障がいのある方、高齢者 の方	多様な人への関わり方を学ぶとともに、日常生活の中での偏見や差別に気づき、だれもが幸せに生活できる社会になるために、自分たちができることや自分たちの生き方について考える。
6	本校の前身である尋常小 学校で起きた事件	差別解消に向けてたくましく生き抜いた二人の先生方の生き方に共感し、地域への誇りと差別解消への明るい展望をもち、日常生活の中の偏見や差別を解消していこうとする。

さらに、学年の発達段階や系統性をふまえて、教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間、特別活動やこれまでの体験等をつなぎ、自分の人権を守り、他の人の人権を守ることの大切さを実感し、具体的な場面で人権を守る実践行動ができる力を育むため、人権総合学習の計画を作成する。人権総合学習でねらうのは、集団での協同体験のなかで、児童一人ひとりに「わたし、あなた、そしてみんな」の肯定的な関係性を生み出す力や、人権の大切さについての「気づき」を人権を尊重する学級や学校をつくる「築き」にする力を身につけることである。

そして、人権課題や差別解消にむけての取り組みなどを主体的に学ぶことを通して、人権課題を解決していくことが「人として素敵である」という価値や感覚を育ませたい。また、「地域学習」を組み入れることで、自分の生まれ育った「ふるさと」に対する尊敬や誇りとともに、肯定的自己イメージが育まれると考える。

5 なかまづくりを進め、自尊感情を高める活異学年活動

学級でのなかまづくりとともに、児童の自尊感情を高め合える異学年集団づくりを行う。活動を通して学級とは違った児童の活躍を増やし、それが自己実現の場となり、自尊感情を高めることにつながるようにする。さらに、児童会活動の「全校遊び」や「ふれあい班遊び」等が、一人ひとりをつなぐ活動になるよう取り組んでいく。このようななかまづくりを通して、未来を切り拓く力がさらに堅固なものになると考える。